

言葉よりも働きの大きい漢字

人類の歴史は百万年とも2百万年とも言われます。仮に百万年としますと、初めの99万5千年が「言葉だけを使ふ人間の歴史」であり、残りの5千年が「文字をも使ふ人間の歴史」であります。人類は言葉を使ふことに依って万物の霊長になりましたが、その進歩は99万5千年の長きを以てしても実に僅かで、その歩みは遅々たるものでした。

所が文字を使ひ始めますと俄かに目覚しい進歩が始まり、この5千年は文字通り日進月歩の歴史でした。その違ひの生ずる原因は「言葉と文字との働きの差」に在ります。“視覚言語”である文字の働きは、“聴覚言語”の言葉に比べて、比較にならない程大きいからです。

「幼児が漢字を学習すると智能が高くなる」といふのも、基本的には漢字が典型的な視覚言語であることに因ります。同じ文字とは言へ“かな”やローマ字のやうな“表音文字”は視覚言語とは言ひ難いほど不完全な文字ですから、いくら学習しても漢字のやうな効果は得られませんが。

それは、先の話の続きになりますが、“目”と“見る”といふ字で比較してみただけでよく判るでせう。“見る”といふ字は「目の人における働き」を表したものですから、“人”を表した“儿”と“目”とを組合せて作られて

みます。だから、“儿”が解れば勿論ですが、それが解らなくても“目”に関係がある事だけは解ります。

これを“め”と“みる”また“eye”と“see”との関係と比べてみると好いと思ひます。全く関係がありません。だから、初めて見る綴りは解らないのが当たり前で、いくら考へても解るわけがありません。ですから、初めて見る綴りに対して“思考”が起らないのです。だから、頭の働きが良くならないのです。